<table>
<tr><td rowspan="2">科目区分</td><td rowspan="2">専門分野</td><td>科目名</td><td>成人看護学概論</td><td>対象学生</td><td>第１学年</td></tr>
<tr><td>単位数（時間数）</td><td>１単位（15 時間）</td><td>学　　期</td><td>第２学期</td></tr>
<tr><td>担当講師</td><td colspan="3">大倉　令</td><td>実務経験</td><td>有</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="5">ライフサイクルにおける成人期の特徴、および成人看護の機能と役割を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="5">第１回　成人と生活　　（講義）
　１．対象理解:大人になること、大人であること
　２．対象の生活:働いて生活を営むこと
第２回　生活と健康　　（講義）
　１．成人を取り巻く環境と生活の状況　　２．生活と健康をはぐくむシステム
第３回 健康をおびやかす要因と看護　（講義）
　１．健康バランスの構成要素　　２．健康バランスに影響を及ぼす要因
　３．生活行動がもたらす健康問題とその予防
第４回 ヘルスプロモーションと看護　（講義）
　１．ヘルスプロモーションと看護　２．ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動
　３．職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護
第５回 成人への看護アプローチの基本
　１．生活の中で健康行動を生みはぐくむ援助　２．症状マネジメント
　３．健康問題をもつ大人と看護師の人間関係
　４．集団の調和や変化を促す看護アプローチ　５．チームアプローチ
　６．看護におけるマネジメント　７．看護実践における倫理的判断
　８．意思決定支援　　９．家族支援
第６・７回 健康障害のレベルと看護　（講義/GW/発表）
　１．健康障害のレベルとしての「経過」について
　２．健康障害のレベルに応じた看護について
　　1）健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護
　　2）慢性病とともに生きる人を支える看護
　　3）障害がある人の生活とリハビリテーション　4）人生の最後のときを支える看護
　３．さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援
　４．新たな治療法・先端医療と看護
第８回　終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">筆記試験（80%）、GW への参加度、成果物・プレゼンテーション（20%）で
総合的に評価</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="5">系統看護学講座 成人看護学１　成人看護学総論 医学書院
厚生の指標　国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会
※他、参考文献は必要時提示する</td></tr>
<tr><td>講師からのメッセージ</td><td colspan="5">成人看護学全般に関わる基礎理論として位置づける。生態系や社会の動向をふまえたうえで、成人期にある生活する対象を、発達段階・健康障害レベルの特徴に応じて身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉えられるように学習する。ライフサイクルにおける成人各期の特徴は、個人ワークやグループワークにて主体的学習を基本とし、調べる、考えることから自ら学びを深める学習を期待する。国家試験出題基準を確認し学習すること。</td></tr>
</table>